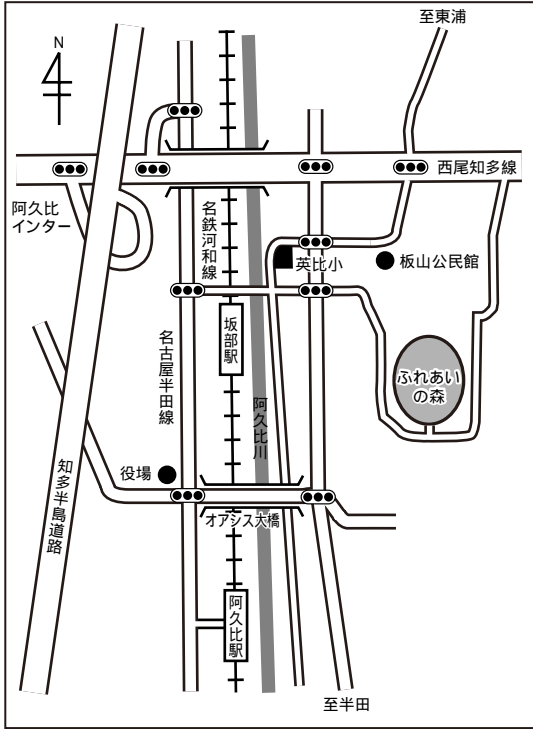
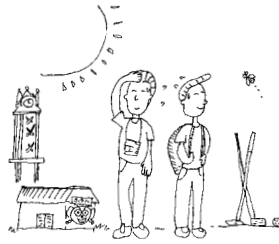


シリーズ

阿久比を歩く ⑧



ホタル養殖場

夏の日の午後、ふれあいの森周辺にぶらり旅に出掛けた。ふれあいの森は、青空の下、子どもから大人まで一日ゆっくりと過ごせる、「憩いの場」である。管理棟を通り過ぎると、高さ七メートルのシンボルモニュメントの時計台が見える。午前十時、正午、午後三時、午後五時になると、からくり時計が作動する。時計台の中で妖精の人形が回り、メルヘンチックな世界を奏

施設かいわいを行く(ふれあいの森)

あ

じ

い

ぶ

ら

り

旅

でる。午後三時、『恋は水色』の曲とともにからくりが動き出した。立ち止まってしばらく眺める。ふれあいの森の中央は、芝生広場が広がる。友人と二人で芝生の上に寝転がる。開放感いっぱい気持ちがいい。目に入るの青い空と入道雲。子どもたちはボール遊びを楽しむ。クマゼミの鳴き声が絶好調。「松尾芭蕉の句で、何とか何とか、蝉の声があつたよ。上句の句なんだっけ?」と友人に尋ねる。「古池や じゃなかつたですかね?」「えっ...。芭蕉の句には違いないけどそれは違うな」。芝生のチクチク感が気になってきたので、上の句を思い出せないまま場所を変える。デイキャンプ場では、炊事場とバーベキューが行える炉が設けてある。「今度家族でバーベキューやりましようよ」「君はいつも調子いいこと言うけど、実際に企画しないかなあ」と私が言つと、「企画しますよ。指切りげんまんしましょう

よ」。友人と指切りをして約束をしたが、いつの日になることやら。まだまだふれあいの森敷地内は広い。子どもたちの喜ぶ遊具も多い。全長五四・八メートルのローラー滑り台。童心に返り滑ってみる。大きな声を出して滑ってきたので利用客が私たちに注目。少し恥ずかしい思いをしたが、心地よい風を感じることができた。ホタル飛びかう住みよい環境づくりを目指して、調査研究を行うための「ホタル養殖場」もふれあいの森の中にある。毎年六月下旬には観察会を開いている。今年も観察会の後に、多くの卵が発見されたことを担当者聞いた。来年もホタルの光が私たちを癒してくれるだろう。セミの声は鳴き止まない。友人が突然、「閉さや 岩にしみ入る 蝉の声 だ」と叫ぶ。「そつだよ」。どの奥に刺さつた、魚の小骨が取れたときのよう気分が晴れる。パターゴルフを楽しむ家族を横目に、ふれあいの森を後にした。



シンボルモニュメントの時計台